

やりがい、魅力伝える

久工大生と建築士交流会

事務所
久留米支部
福岡県南
協会



企業の代表者、久留米工業大学建築・設備工学科の学生が参加。学生は将来についての不安や悩みを相談、それに対し会員がユーモアを交えながら学生時代のエピソードや仕事のやりがい、楽しさなどを答えた。

交流会は、よ

り良い建築を設計し続けるため、やる気のある若手技術者の育成を考える協会側と、将来の学生の進路に役立てたい大学側の意見が一致し開催しているもの。

桜庭支部長は「昨年の

交流会はコロナの影響で開催できなかった。今年も開催が危ぶまれたが、感染者の減少に伴い万全の感染症対策を講じた上で開催することとなった。今回はこれまでと違い、建築士の仕事についてより具体的に知ることができるので、将来の役に立ててもらいたい。お互いに有意義な時間となればと思う」とあいさつ。

交流会は事前に学生に

対して行ったアンケートに会員代表者が解答する形で進められた。会員解答者は木村昭文氏（フィールドデザイン一級建築士事務所）、井上文雄氏（有井上建築事務所）、高嶋誠司氏（高嶋

建築事務所一級建築士事務所）、濱崎宣子氏（D

ar・Fruito一級建

築士事務所）の4人。学

生は大学のうちにやっておくべきことや仕事のやりがいおよび楽しみ、進

路決定を決めた時期、採

用に好ましい人物像などを質問した。

大学のうちにやってお

くべきことに関する質問

に対し、井上氏は「時間

がある学生の時ににか

く多くの建築物に触れる

ことが大切。日本国内で

もいいが海外の建築に触

れることで、より自分の

感性が磨かれる」と自らの

経験を語った。

また、仕事のやりがい

および楽しさについて木

村氏は「建築の設計とい

うのは9割がイヤなもの

の。残り1割に楽しさがある

。先が見えず苦しさを

感じるが、思ったことが

形になり顧客に感謝さ

れた瞬間にやりがいを感じ

る」などと説明。

進路決定を決めた時期

について高嶋氏は、夢に

向かって進むことが一番

大切とした上で「企業で

働くとき必ずお金の問題が

でてくる。自分の理想を

追い求めるか、安定した

給料をもらうか方向性は

さまざま。何をつくり表

現したいかで選択が変わ

る」などとアドバイス。

濱崎氏は「学生時代に

イベントやコンペの経験

があることは将来必ず役

に立つ。時間にゆとりが

ある分スキルも磨ける。

就職しても勉強は続く」

など、今を一生懸命生き

ることの大切さを伝えた。

なお、第2部では学生

がコンペに出展した作品

をプレゼンし、会員がそ

れぞれの視点で審査を行

い、講評する新たな取り組みも行われた。